

平成27年度第2回大和市消防運営審議会議事録

平成28年2月24日(水)

午後2時00分から 消防本部3階講堂

(傍聴者なし)

○審議会委員出席者 近藤会長、北島会長職務代理、石井委員、富澤委員、野村委員、市川委員、竹本委員、西委員、藤井委員、力武委員(計10名)

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 消防長あいさつ

4. 議題

(1) 平成27年度主要事業の実施状況について

※消防総務課長より説明

質 疑

委 員：消防費全体の予算はいくらになっているのか。また、市の予算の中での割合はどの程度か。

消防総務課長：消防予算は24億23百万円となっている。こちらには人件費も含まれている。割合としては一般会計の約3%となっており、県内の消防本部では、2%後半から4、5%台が多い状況である。

委 員：米海軍との連携について報告があったが、厚木基地内の海上自衛隊との連携についてはどうなっているのか。

警 防 課 長：自衛隊との協定は結んでいない。

委 員：先日、大和駅で一般の方が傷病者を救助したと聞いたが、その方たちは、救命講習等は受講されていたのか。

消防総務課長：救助にあたったのは、消防職に就かれている方々で救急救命の心得があった方だと聞いている。偶然、現場に居合わせたため、救助活動を行ったとのことだ。

5. その他

(1) 平成27年(1月～12月)の災害概要(速報値)について

※管理課長より説明

質 疑

委員：火災発生原因の半分程度が、放火及び放火の疑いとなっているが、捜査等はどうなっているのか。

消防署長：火災原因調査は消防で行うが、その後の捜査は、警察の担当になるため、消防による捜査は行っていない。

(2) 消防車両の更新について

※警防課長より説明

質 疑

委員：市内には、消火栓、防火水槽、スタンドパイプなどを設置し、火災時の対策を行っているが、大規模地震の際には、市内の水道管が相当数断水するとも聞いている。そこで、断水時に備えて、水を使用しない、例えば泡消火ができる消防車などの導入予定はあるのか。

警防課長：水を使用しない消火方法については、調査・研究中である。

委員：苫小牧のフェリー火災事故の際、陸上で走行するタンクローリー車に水を入れ、筏に載せてフェリーの近くまで牽引して行き、消火を行ったそうだ。大規模災害で道路が使用できない場合は、現場まで消火剤を運搬し消火するなどの方策を検討しても良いのではないか。

(3) 大和市少年消防団の概要について

※予防課長より説明

質疑なし

(4) 大和市火災予防条例の一部改正について

※予防課長より説明

質疑なし

(5) 救急救命課事業報告について

※救急救命担当係長より説明

質 疑

委員：コンビニエンスストアに設置されている、AEDを見ると様々なメーカーのものが混在している。使用方法については各社で共通しているのか。

係長：ほとんど同じである。過去には、ふたを開けてから、電源ボタンを押すものがあったが、現在では、ふたを開けると同時に電源が入るものが主流になってきている。市内に設置している

ものは後者のタイプが殆どである。

また、音声による案内により、操作を行うタイプが主流になってきている。

委員：私自身もAEDの使用訓練を受けたことがあるが、音声による案内があり、非常にわかり易く操作もし易くなっている。委員のみなさんも是非一度体験してもらいたい。

(6) 初期消火用資機材整備事業について

※消防署管理課長より説明

質疑なし

(7) その他

委員：防火ポスターの表彰式で、どのポスターをどの生徒が制作したかがわかりにくかった。表彰の仕方を変更しても良いのではないか。

委員：映像等でポスターを大きく映し出す等も考慮してはどうか。

消防長：会場のスペースと構造上の問題で、わかりづらい部分があったと感じている。来年度からは、新ホールを使用することになると思うので、検討課題としたい。

委員：FMやまと消防の繋がりほどの程度密接であるか。消防が番組を持って、広報などを行ってもよいのではないか。

消防長：FMやまととは、密接な関係にあると言える。隔週に一度、消防職員が出演し、イベントの案内や各種啓発を行っている。

6. 閉会